IBM　ITスペシャリストの面接

# 選考状況

御社の選考が行われているほか、アクセンチュアさんの選考も並行して進めています。

# 学生時代頑張ったこと

大学三年の時、1年間のAR技術運用のプロジェクトで6人のメンバーをリードし、建物をリアルに再現したARアプリを成功に導いた経験があります。

8ヶ月目では、技術的な壁にぶちあたったため、全員のモチベーションを下がり、プロジェクト全体の進捗が遅れる状況に直面しました。状況を対応するために、3つの対策を講じました。

１つ目は、チーム相談会を通じてメンバーの興味や得意なところを知った上で、メンバーの興味や強みに応じた役割分担をしました。2つ目は、2人ずつチームを組み、モチベーションの向上と作業の効率化を図りました。3つ目は、チーム全員でAR技術の研究をし、「pokermon go」のようなAR製品の楽しさを体験することで、改めて課題を明確にし、モチベーションを高めました。

その結果、モチベーションが上がり、技術の課題も解決し、期限までに完成しました。さらには、200以上のチームの中から全国3等賞を受賞できました。

## 一番困難なこと、どう乗り越えた？

一番困難なことは、技術的な困難でした。具体的には、ARアプリをエクスポートするときにエラーが発生したことです。エラーを解決するために、以下の対策を講じました。チーム全員が1ヶ月をかけて60本以上の記事を調べることで、プロジェクト名に漢字が含まれていたことや、アプリをエクスポートするツールを導入していなかったという原因を見つけました。その原因を解決することで、エラー表示を無くしました。

## どのようなプロジェクト？

AR技術の見える特性、利便性、インタラクティブ性を利用し、古い建物を復元（ふくげん）した姿をAR技術で再現したARアプリを作りました。建築のデジタル化の研究において非常に有意義な研究だと思います。

## メンバーのモチベーションを下がる時の対策

１つ目は、チーム相談会を通じてメンバーの興味や得意なところを知った上で、メンバーの興味や強みに応じた役割分担をしました。2つ目は、2人ずつチームを組み、モチベーションの向上と作業の効率化を図りました。3つ目は、チーム全員でAR技術の研究をし、「pokermon go」のようなAR製品の楽しさを体験することで、改めて課題を明確にし、モチベーションを高めました。

## 学チカのきっかけ、楽しかったこと

はい、私は建築学専攻で、建築学のデジタル化に興味を持っていました。そして、先端技術を使用し、建築の体験におけるイノベーションに挑戦したいと考え、プロジェクトに参加しました。

## どのような目標を達成する？

二つの目標を達成しました。

1つ目は、チームメンバーのAR技術の知見を増やすこと。

2つ目は、建物をリアルに再現したARアプリを成功に作り出すこと。

## 学んだこと・会社でどう活かす

学んだことは２つあります。1つ目は、困難に立ち向かい能動的に取り組むことが課題解決に繋がることです。2つ目は、常に当事者意識を持ちながら、メンバーを一人ひとり大切にすることの重要さです。私はこの経験から身に付いた技術力とチームをまとめる経験を御社で活かしていきたいです。

# 開発経験の有無

はい、あります。

SEとして中国の大手インターネット会社で長期インターンシップをしていまました。開発チームの一員として、IM製品へのユーザー側のアンケート調査を行い、アンケート調査やバックオフィスから得た顧客満足度のデータを集計・分析し、UIデザインと機能要件からIM製品のアップデートに使用しました。

# 自己PR

適応性をアピール

## 強み

私の強みは相手の立場に立った提案力です。

## エピソード

アルバイトの塾講師の経験の中で、生徒の希望や今のレベルに応じて最適な学習プランやカリキュラムを提案し、30名の生徒を希望校に合格させました。

## どう生かす？

この経験から、相手の目線（めせん）に立って提案する力を身に付けました。この強みは御社のITスペシャリストの仕事に活かしたいと思います。

## 弱み

人前で話すと緊張になります。

## 弱みの改善のために何か努力している？

Toastmasters Internationalなどのグループに参加し、人前で話す練習を増やすことで、克服しました。今は人前で話すのはあまり緊張しなくなりました。

# サークルの経験

大学時代、新聞連合部というサークルに参加したことがありますが、主に建築業界に関する最新情報を収集したり、雑誌や公式サイトに記事を書き、掲載したりする作業を担当していました。また、学校の運動会など、大きなイベントが開催される時に、現場の取材と記録を担当していました。

## ◯◯部に入ったきっかけ

文章を書くことが趣味だったので、趣味を活かせると考え、入部しました。同時に、最新のニュースに触れる機会もあり、写真撮影や写真処理などのスキルも獲得できるので、新聞連合部に入ろうと決めました。

# 人生の大切にしていること

## いつも心にかけていること/大切にしていること？

「目標達成」ということを最も大切にしています。

## この答えに対して、自分の思い？

まずは、目標を達成することは、自分自身の成長につながると思うので、目標を達成するまで諦めないという信念を持ち、必要なスキルや知識を能動的に学んでいくことが、問題解決力やチャンレンジ精神を鍛える（きたえる）ことができると思います。

次に、目標を達成することは、周りからの評価にもつながるので、さらに自分に対する自信や達成感を得ることができると思います。モチベーションが向上することで、次の目標に取り組むための新たなエネルギーが生まれるので、好循環になると考えますので、目標達成を大切にしています。

## 大切にしていることの成果体験

はい、目標達成を大切にすることで、長期インターンシップで学費を稼ぎながら、大学院入試に合格しました。

# 志望動機

## 就職軸

二つある。一つ目は、若いうちから挑戦できる環境があること。

二つ目は、多様性があり、ダイバーシティが重視されること。

## ＩＢＭの志望理由

結論から申しますと御社を志望している理由は二つあります。1つ目は「テクノロジーを最大限活用し、顧客の課題解決や社会変革に貢献したい」と考えからです。（具体例）

二つ目は、「ダイバーシティを大切にする企業で働くことで」と考えています。御社はダイバーシティと包摂性を重視する企業文化を持つことは私の就職軸と一致しています。（具体例）以上です。

## なんでITスペシャリストなのか

理由は２つあります。1つ目は、幅広い業務内容の多くに携わるチャンスがあり、多くの知識や能力を持つ人材になると、インフラストラクチャーの変革を推進していきたいからです。私は大学院の授業で、AIやIOTを活用した魅力的な「スマートシティ」の構想にやりがいを感じました。住民に便利で暮らしやすい環境を作る立場に立って、SEとして実務から経験を積んで課題解決ためのスキルを磨くことで、社会に貢献したいと考えています。

2つ目は、変化に富んだ（とんだ）仕事をしたいからです。ITスペシャリストとして開発からコンサルまで、幅広い業務に携わる知識やスキルを身につけて、顧客の要望に対応して最適なソリューションを提供する提案力が必要です。そのような変化に富んだ仕事をチャレンジして、自分の業務レベルや認知を向上させ人生の達成感を得ることができます。

参考：

上述のように、ハードウェアからソフトウェア、クラウドサービスなど幅広いソリューションを提供している日本IBM。  
それだけではなくコンサルティングも行うなど（※1）、その業務内容は非常に多岐にわたっています。

そんな幅広い業務内容の多くに携わるチャンスがあり、ITの専門性を高められるのがITスペシャリストという職種だけだと考えますので志望しました。

## IBMの強み

日本のIT分野に欠かせない存在である点

2020年にはAI市場の市場シェアランキングで第1位を獲得

優れた技術を世に生み出してきたIBMの技術力の高さ

ダイバーシティを重視

## どんな事業に携わりたいか

建築学や都市計画の知識を用いて、ITスペシャリストとして御社の「スマートシティ・テクノロジーがインフラストラクチャーを変革」の事業に取り組み、さらには学生時代の活動経験を活かし企業や社会の変革に貢献したいと考えています。私は学生時代、社会工学専攻で幅広い分野の勉強に取り組み、特別に「スマートシティの構想」や「テクノロジー化」に強い関心を持ち、そのインフラストラクチャー**施**設管理統合職場管理ソリューションで、IoTとAIを使用して、スマート・ビルディングの設計、運用、利用者体験を最適化することに貢献したいです。

## IBMの事例

**・スマートシティ・テクノロジーがインフラストラクチャーを変革**

IBMが各地のコミュニティーの公共インフラストラクチャ―のモダナイズを進歩させ、継続的に支援している。

１）パブリック・セクター向けIBM Garage

２）インフラストラクチャー資産管理

**3）施設管理：IoTとAIを使用して、スマート・ビルディングの設計、運用、利用者体験を最適化します。**

３）SAPソリューションのためのIBM Services

SAPとIBMは、実績のあるERP手法を使用して、コストを削減し、俊敏性を向上させ、結果を改善するためのカスタムロードマップを作成するのを支援します。